

第2次野洲市環境基本計画 中間評価一覧

資料 2-1

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99～80)、C…未達成(79～50)、D…大半が未着手(49～1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、事業中止や規模縮小があったため、結果に影響があったものを「**コロナ**」と表示

基本目標1、安全で快適な生活環境づくり

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標				
					指標	策定時	目標	H29	結果
1-1	大気環境 水環境の 保全	大気・水質の 把握 と情報発信	・大気環境 ・水環境の監視 ・環境情報の 発信 ・排出規制・指導	健康で快適な くらしを守る プロジェクト	・大気汚染に係る環境基準の達 成状況 NO ₂ (二酸化窒素)、SO ₂ (二酸化 硫黄)、SPM(浮遊粒子状物質) (三上小学校、駅前北自治会館 前、小堤、七間場)	環境 基準 を達成	維持	A	A
					・公共用水域の水質汚濁に係る 環境基準の達成状況 環境基準の類型指定河川(〇類 型：新川、江口川、童子川、祇王井 川、大山川)のBOD(生物化学的 酸素要求量)	環境 基準 を達成	維持	A	A

傾向	評価	課題	方向性の判断
↑ 変わらない	過去4年間、NO ₂ 、SO ₂ 、SPMIについて、測定4地点で環境基準以下(NO ₂ については、短期曝露の指針値以下)であった。	特に大きな課題はない	継続 環境保全の遵守すべき項目のため
↑ 変わらない	5河川の過去4年間のBODの値は環境基準以下であった。	河川水質の変化については、自然的な要因も大きく関係していると考えられるので、今後も注意深く監視していく必要がある。	継続 環境保全の遵守すべき項目のため

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標				
					指標	策定時	目標	H29	結果
1-2	生活環境 の保全	騒音・振動 の防止 悪臭および 土壌汚染 対策	・騒音・振動の 監視・規制・指導 ・開発行為に 関する 助言・指導	健康で快適な くらしを守る プロジェクト	・環境保全協定締結事業所数	91 % (107件) (平成27 年度)	100%	B 110社 /114社	B 112社 /115社
					・典型7公害に係る公害苦情の 件数	44件 (平成23 ～ 27年度 の平均)	減少	C 55件	C 52件

傾向	評価	課題	方向性の判断
↑ 改善している	環境保全協定締結事業所数は、策定時より増加している。	未締結事業所に対する協定締結に向けた効果的な検討が必要。	継続
↑ 悪化している	典型7公害の苦情件数は、いずれも策定時よりも増加している。	野焼き行為による苦情件数が依然として多い。	継続

基本目標1、安全で快適な生活環境づくり					結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99～80)、C…未達成(79～50)、D…大半が未着手(49～1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ				
点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	指標		結果		
					策定時	目標	H29	H30	R02
1-3	環境美化 の推進	不法投棄 対策・ 美化活動の 促進	・不法投棄対策 ・環境衛生対策	きれいなまちを 守る プロジェクト	214件 (平成23 ～ 27年度 の平均)	減少	C 264件	C 284件	C 293件 281件 284 293 281
傾向					課題				
悪化している					悪質な不法投棄は警察と連携し、再発防止につな げているが、更なる不法投棄減少への方策が必要 である。				
					方向性の判断				
					継続				

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	指標		結果		
					策定時	目標	H29	H30	R02
1-4	まちなかの 緑化	緑の保全 と創造	・公園整備 ・維持管理 ・緑化推進	まちなかの 緑づくり プロジェクト	8.07㎡/ 人 (平成27 年度)	10㎡/人	B 8.06㎡ /人	B 8.06㎡ /人	B 8.06㎡ /人
傾向					課題				
変わらない					第2次野洲市総合計画では令和8年度までの目標 が8.5㎡とされたため、上位計画との整合性を図る 必要がある。				
良くなっている					市民団体により河辺林保全活動が計画的・定期的 に実施され、整備が行き届いてい る。				
					方向性の判断				
					見直し 第2次野洲市総合計画の目標値との整合性を図る 必要がある				
					継続				

基本目標2、循環型社会・低炭素社会づくり

結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99～80)、C…未達成(79～50)、D…大半が未着手(49～1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	指標		結果				
					策定時	目標	H29	H30	R01	R02	
2-1	3Rの促進	ごみの資源化 の 促進 ごみの 分別 の 徹底	・3Rの普及促進 ・グリーン購入 推進	ごみの資源化 プロジェクト	・リユースステーション利用者数 (リユース物品無償譲渡会 参加者数)	121人 (平成27 年度)	維持	C 38人	C 27人	C 30人	B 100人
					・市内で回収した廃食油の リサイクル率	100 % (平成27 年度)	100%	A 100% 45850	A 100% 42200	A 100% 43510	A 100% 45270
									</		

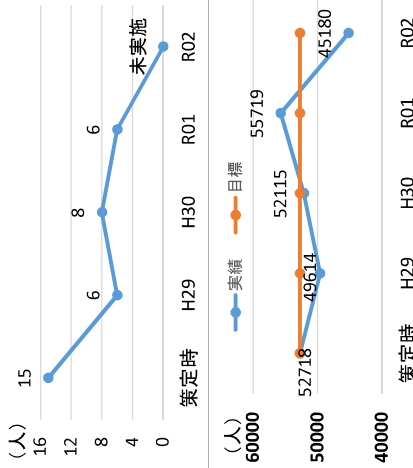
傾向	評価	課題	方向性の判断
悪いが改善している	市民から排出された「粗大ごみ」を循環させる役割を果たしている。開催日に来場できない市民もいることから、令和3年度は期間限定で、常設展示・譲渡を実施する。	常設展示によりリユースステーションへの訪問者は増加する見込みであるが、譲渡のルール整備が必要である。	継続 更なる資源循環を図るため、常設とイベントの併用を検討する。
変わらない	市民がいつでも利用できるよう、市内13ヶ所に回収BOXを設置おり、回収量は安定している。また、市民団体が月1回イベント回収を行っており、対面で受け取ることで、リサイクルの促進につながっている。	回収BOXの更なる利用促進のため設置場所の変更を検討する必要がある。	継続

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	指標		結果				
					策定時	目標	H29	H30	R01	R02	
2-2	廃棄物の 適正処理	適正処理 の推進	・分別収集の徹底	ごみ減量 プロジェクト	・1人あたりの一般廃棄物の排出 量 ※一般廃棄物処理基本計画にお ける目標を参照	738 g/ 人・日 (平成27 年度)	703.5 g/ 人・日	C	C	C	C
		777.0g /人・日 (平成36 年度)				805.5g /人・日	748.6g /人・日	767.9g /人・日			
						(g／人・日) 実績 目標 策定時 H29 H30 R01 R02 850 800 750 700 650 777 805.5 748.6 767.9 738 738 723 717.4 714.6					

傾向	評価	課題	方向性の判断
悪化している	市民一人当たりのごみ排出量は増えている。ごみ減量プロジェクト発足以来の取組であるレジ袋削減・マイバック持参運動が実を結び、国の政策としてのレジ袋有料化が始まった。	ごみの排出抑制を通じたマイクロプラスチック・食品ロス削減の普及啓発が必要である。	見直し 令和3年度一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の見直しが予定されており、目標値について整合性を図る必要がある。

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標			
					指標	策定時	目標	結果 H29 H30 R01 R02
2-3	地球温暖化 への対策	再生可能 エネルギー や 省エネルギー の推進	・省エネ化の推進 ・再生可能 エネルギー 導入推進 ・交通分野での CO2排出抑制の 推進	地球温暖化 対策推進 プロジェクト	・クリーンセンターのサーマル リサイクル熱回収率 (熱回収量/熱発生量)	—	10 %以上	A A A A
					・エコドライブ講習 参加者数(のべ)	15人 (平成27 年度)	増加	C C C C 実施した人が人数が集まっていない ため評価をCとしている。
					・コミュニティバス年間利用者数	52,718 人/年 (平成27 年度)	増加	B A A A 52,718 52,115 55,719 45,718 人 人 人 人 コロナ

令和2年度
「野洲市健康スポーツセンター」
オープン



傾向	評価	課題	方向性の判断
目標を達成した	健康スポーツセンターが令和2年度にオープンし、熱回収率10%は達成している。	温浴施設への余熱利用は安定して供給できる見込みがあり、他に余熱利用の方策がない。	見直し 指標の変更を検討する必要がある。
悪化している	過去4年間、目標を下回った。 現行のエコドライブ講習会は実車を使用するため、大人数での開催は難しい。	実車を使用した講習会では人数が限られるため、市全体としては啓発の効果が薄い。また、自動車の性能が高まっており、実車を使用した講習会の必要性があるかが疑問。	見直し 指標の変更を検討する必要がある
良くなっている	高齢者の運転免許証自主返納の増加に伴う公共交通機関への転換促進や自治会に対して公共交通(バス)の利用促進を呼びかけた他、5路線から7路線に増数・増便し利便性の向上に取り組んだため、コミュニティバスの利用者数は増加している。	市民の自動車保有率はまだ高く、市内移動において自家用車への依存する生活から公共交通へシフトできていない。加えて民間バス事業者からの減便案の要望があり、バス会社や自治会との調整が必要。	継続

基本目標3、里山から琵琶湖へつながる自然環境づくり 結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99～80)、C…未達成(79～50)、D…大半が未着手(49～1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標				結果			
					指標	策定時	目標		H29	H30	R01	R02
3-1 3-3	生物多様性の 維持・向上 河川・琵琶湖の保全	外来種対策 ・希少生物の保護	・生育・生態環境の保全 ・外来生物対策 ・湖岸の保全 ・ヨシ群落再生 ・ピワマス遡上対策	みんなが親しみ きれいな 川づくり プロジェクト びわ湖を守るう プロジェクト	・河岸・湖岸清掃活動実施回数、 参加者数(のべ)	10回・ 213人 (平成23 ～27年 度の 平均)	維持		A 10回 160人	A 22回 715人	A 32回 820人	A 27回 620人
		水環境の 保全推進			・環境学習会・体験イベント等 実施回数、参加者数(のべ)	53回・ 1,763人 (平成23 ～27年 度の 平均)	維持		A 48回 1899人	A 60回 2922人	A 57回 2444人	C 14回 897人 コロナ

(回)

(人)

回数

参加者数

40	820
30	715
20	620
10	27
0	0

策定時H29H30R01R02

(回)

(人)

回数

参加者数

60	2922
40	2444
20	1899
0	897
53	14

策定時H29H30R01R02

傾向	評価	課題	方向性の判断
良くなっている	琵琶湖保全、河川保全ともに市民団体の活動が継続して実施されており、参加者が安定的である。	参加者は多いが、核となる人材の後継者がいない。	継続
変わらない	参加者は安定的である。	イベントの参加者から担い手になる人材が少ない。	継続

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標				結果			
					指標	策定時	目標		H29	H30	R01	R02
3-2	里山の保全	森づくりの 促進、 森林資源の 活用促進	・里山の環境保全	里山を 守り育てる プロジェクト	・里山保全活動実施回数、 参加者数(のべ)	29回・ 346人 (平成23 ～27年 度の 平均)	維持		A 35回 407人	A 46回 377人	A 42回 433人	A 42回 449人
					・里山学習会・体験イベント等 実施回数、参加者数(のべ)	16回・ 511人 (平成23 ～27年 度の 平均)	維持		A 27回 1143人	A 15回 727人	A 18回 558人	A 7回 226人 コロナ

(回)

(人)

回数

参加者数

50	449
40	433
30	377
20	42
10	42
0	0

策定時H29H30R01R02

(回)

(人)

回数

参加者数

30	1143
20	727
10	558
0	226
16	7

策定時H29H30R01R02

傾向	評価	課題	方向性の判断
良くなっている	市民団体の活動が継続して実施されており、参加者が安定的である。	参加者は多いが、核となる人材の後継者がいない。	継続
変わらない	参加者は安定的である。	イベントの参加者から担い手になる人材が少ない。	継続

基本目標4、環境学習の推進による市民活動の促進 結果について、A…達成(100)、B…ほぼ達成(99～80)、C…未達成(79～50)、D…大半が未着手(49～1)、E…未着手(0)とする。()内の数値は達成度のパーセントイメージ

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	指標			第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標									
					現況	目標	結果	H29	H30	R01	R02						
4-1	環境学習 の推進	ライブ ステージに 応じた 環境学習 の充実	・学習機会の拡大 ・エコスクールの 推進 ・地域での 環境学習の充実	みんなで 環境学習 プロジェクト ・出前講座等(省エネ・リサイクル 関連)実施回数、参加者数(のべ)	17回・ 642人 (平成23 ～27年 度の 平均))	継続	A 17回 706人	A 17回 910人	A 18回 996人	C 11回 431人 コロナ	(回)	(人)					
							17 640	706	910	996	15 640	20 1000					
												回数	参加者数				
												17	17	17	18	431	11
												策定時	H29	H30	R01	R02	

傾向	評価	課題	方向性の判断
↑ 変わらない	学校や地域に出前講座を告知し、令和2年度を除いて毎年目標を達成した。市民への啓発に役立っている。	団体への広報手段が限定的で、新規の依頼が少ない。	継続

点検 番号	施策の方針	施策の内容	施策の取組	重点プロジェクト	指標			第2次野洲市環境基本計画で定めた進捗評価のための指標				結果			
					指標	現況	目標	H29	H30	R01	R02	H29	H30	R01	R02
4-2	・環境活動団体等への支援	学びの場の提供や活動情報の発信	・地域等での環境学習の支援 ・重点プロジェクトへの支援	環境活動支援プロジェクト	・クリーンセンターの市民活動拠点における市民活動等実施回数	—	年1回以上	A 環境フェスタ	A 環境フェスタ	A 環境フェスタ	1	1	1	1	1
4-3	・普及・啓発の担い手の育成・継承	活動団体・活動指導者と市民とを結びつける体制整備	・自発的な活動の誘導・支援 ・協働の推進 ・人材の育成		・HP情報発信数	—	月1回	A	A	A	24	17	17	16	
											(回)				

傾向	評価	課題	方向性の判断
↑ 変わらない	クリーンセンターの活用は年1回の環境フェスタにとどまっている。環境フェスタの中で、地元野菜の販売(地産地消)、リユース、リサイクルに関する教室の他、環境に関する展示等を実施している。	環境フェスタ以外のイベントがない。	継続
↑ 変わらない	イベントや環境に関わる内容を適宜HPで発信している。	広報やチラシ、HPでは情報の受け取り側の年齢層に偏りがある。	継続 SNS等の活用の検討